

はじめの経済学入門講座

第3章 マクロ経済学 - 経済の大きさ -

講師：有馬秀次

1. マクロ経済学 - 所得分析 -

マクロ経済学とは何か

マクロ経済学とは、国全体（社会全体）の経済活動（取引）の大きさや変化を分析する学問のことで、巨視的経済学と訳されます。

マクロ経済学の研究テーマは、所得分析です。

所得分析

所得分析とは、「国民所得（国全体の所得水準をあらわす指標）の集計量」を分析するもので、マクロ分析、巨視的分析、国民所得分析と

いいます。所得分析では、「国民所得は、どのように決まるのか？」「不況対策は、どうしたらいいのか？」などを研究します。

マクロ経済学の目的

マクロ経済学の目的は、経済の状態（物価が安定しているか、失業がないか）を判断し、経済政策の必要性を見極めることにあります。

マクロ経済学

国全体の取引の大きさや変化を分析

マクロ経済指標

(集計量に関する指標)

国民所得	国全体の所得水準をあらわす
失業率	労働人口における失業者の割合をあらわす
物価上昇率	物価水準の変動をあらわす
経済成長率	経済の成長の速度をあらわす
国際収支	外国との経済関係をあらわす

物価が安定しているか？ 失業がないか？

経済政策が必要か？



マクロ経済の目標は、経済の安定化、経済成長、完全雇用、国際収支の均衡などを達成させることです。

3. 国内総生産 (GDP) - 経済の大きさ -

日本の国内 (領土内) で、1年間 (1単位期間) に、新たに生産されたモノの付加価値を合計したものを国内総生産 (GDP) といいます。

GDP は、経済活動の取引規模をあらゆる指標で、財市場の均衡量 (取引量) に相当します。

GDP = 最終生産物の総取引額 = 付加価値の合計

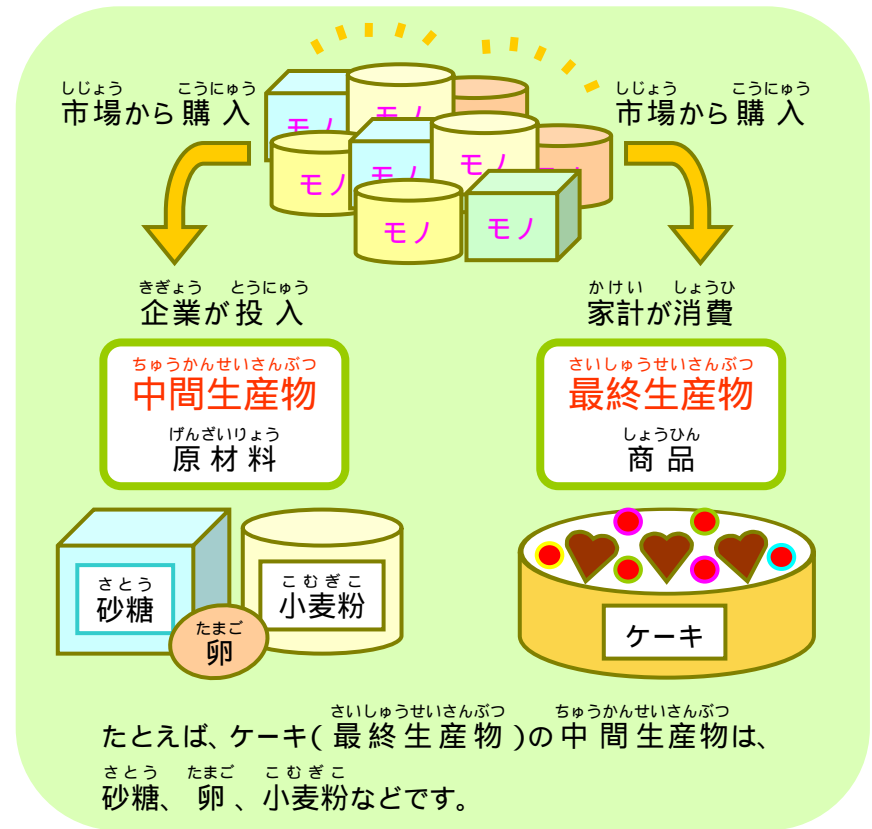
市場では、中間生産物と最終生産物が取引されています。

中間生産物 (中間財) とは、企業がモノを生産するときの原材料となる生産物のことです。

一方、最終生産物 (最終財) とは、家計が消費する生産物のことです。最終生産物は、企業が中間生産物 (原材料) を投入し、さらに加工して作ったものです。したがって、最終生産物には、中間生産物が含まれています。

最終生産物の総取引額は、市場の全取引 (最終生産物と中間生産物) のもうけの部分の合計したもの (付加価値の合計 = GDP) に等しくなります。

付加価値とは、商品の販売額から原材料費を差し引いたもうけの部分のことです。付加価値には、各企業の生産活動によって、商品に新しく付け加えられた価値という意味があります。



最終生産物の総取引額と中間生産物の総取引額を合計したものを総産出額といえます。

総産出額

中間生産物の総取引額

+

最終生産物の総取引額

特に断りがなければ、一国の総生産額とは、総産出額ではなく、最終生産物のことをあらわします。

4. 経済の大きさ (GDP) を計算してみよう

農家がとうもろこし (中間生産物) を製菓会社に 30円で販売し、製菓会社がそれをポップコーン (最終生産物) に加工して、わたしたちに 100円で販売したとします。

(1) 最終生産物の総取引額はいくらでしょう？

答えは、100円。

最終生産物の総取引額は、経済の大きさ (GDP) をあらわします。

(2) 総産出額はいくらでしょう？

答えは、130円 (30 + 100 = 130)。

ポップコーン (最終生産物) の 100円には、原材料であるとうもろこし (中間生産物) の 30円が含まれています。

中間生産物 (とうもろこし) の取引金額が重複しているため、総産出額は、経済の大きさ (GDP = 100円) とは一致しません。

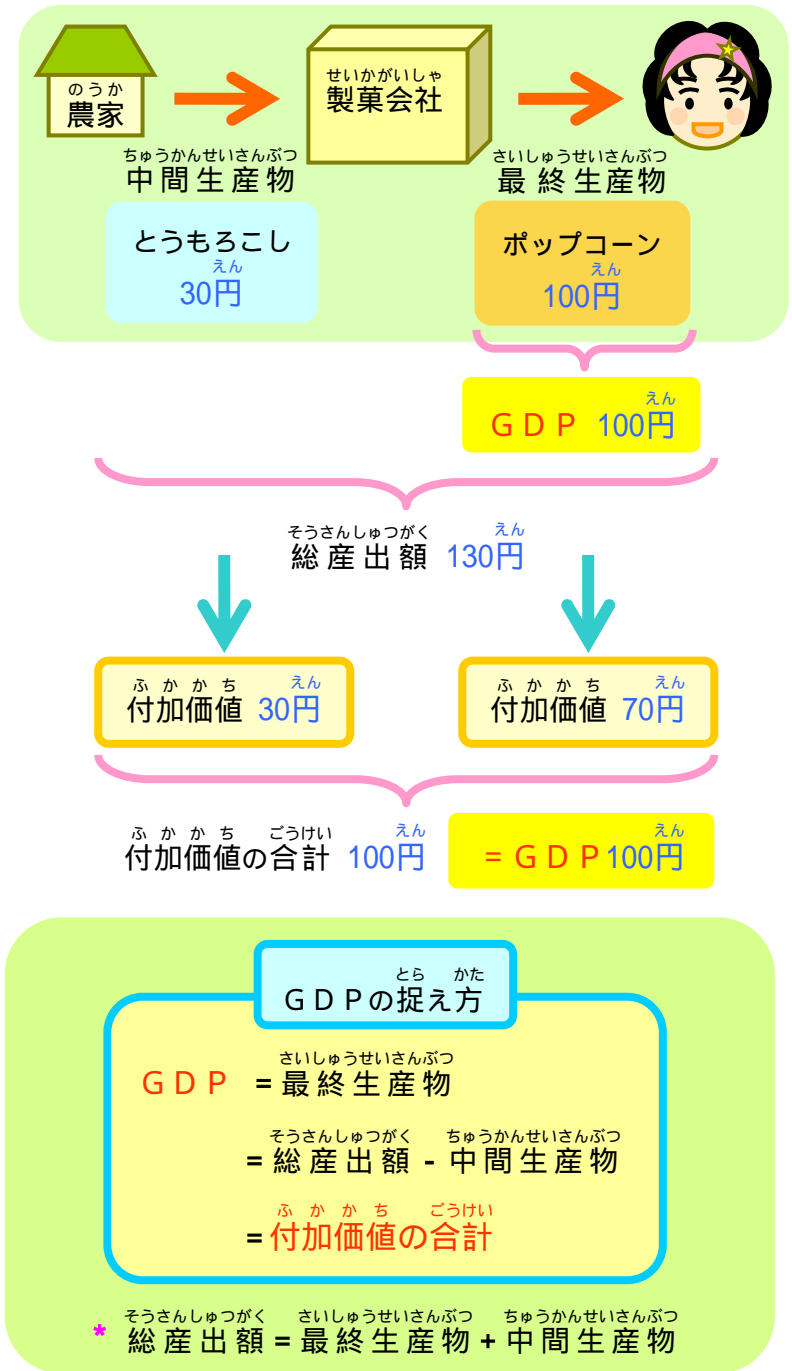
(3) 付加価値 (もうけ) の合計はいくらでしょう？

答えは、100円 (30 + 70 = 100)。

* 農家のもうけは 30円 (この例では、原価をゼロと仮定)

* 製菓会社のもうけは 70円 (100 - 30 = 70)

付加価値の合計は、経済の大きさ (GDP = 100円) と一致します。



5. GDPの集計 - GDPに含める取引-

実際に市場で取引されていなくても、「市場で取引された」と仮定して、
 例外的にGDP(国内総生産)の集計に加えることを**帰属計算**と
 します。

GDPに含める取引

GDPに含める取引には、農家の自家消費用の農作物、持ち家の家賃、
 公共サービス(司法、国防、消防、警察など)、株式の配当金、財産所得
 (利子、配当、地代、損害保険の受取)などがあります。

農作物は、市場で取引することを目的に作られているため、GDPに含
 むべき取引です。そこで、農家がこれを自分の家で消費した場合にも、「市場
 で取引された」と仮定して、GDPに含めます。

GDPに含めない取引

GDPに含めない取引には、中古マンションや中古車の売買額、親から
 の遺産、失業保険、株式や土地などの資産価格の変化、主婦の家事労働、
 日曜大工、ボランティア活動などがあります。

中古品は、実際に市場で取引されています。しかし、新たに生産された
 ものではないので、GDPには含めません(ただし、取引にかかる仲介手
 料はGDPに含めます)。

主婦の家事労働や日曜大工、ボランティア活動などは、新たな価値を生
 みだしますが、実際に市場で取引されていないため、GDPには含めません。

日本と世界のGDP

日本の名目国内総生産(名目GDP)は、**約500兆円**です。

日本名目GDP	
年	兆円
2003年	493兆7480億円
2004年	498兆4910億円
2005年	503兆8450億円
2006年	511兆8770億円

世界の名目国内総生産(名目GDP)は、2006(平成18)年には、
第1位が米国(約13兆1923億ドル)、**第2位が日本**(約4兆3755億ド
 ル)、**第3位がドイツ**(約2兆8887億ドル)となっています。

世界のGDPのうち、**3割を米国**が、**1割強を日本**が占めています。

世界名目GDP(億ドル表示)					
順位	国名	2003年	2004年	2005年	2006年
1位	米国	109,080	116,573	123,979	131,923
2位	日本	42,402	46,092	45,576	43,755
3位	ドイツ	24,395	27,406	27,869	28,887
4位	中国	16,479	19,365	22,784	26,668
5位	イギリス	18,128	21,541	22,263	23,725

参考：総務省統計局「世界の統計 2008」

6. 国内総支出 - GDP を支出面から捉える-

けいざい おお しょうひ ししゅつ めん うちわけ とら けいきどうこう
経済の大きさ(GDP)を消費(支出)面の内訳から捉えると、景気動向
けいざいせいちょう よそく やくだ
や経済成長の予測に役立ちます。

国内総支出とは何か

けいざい おお ししゅつめん こうにゆう ししゅつ とら
経済の大きさを支出面(モノを購入するための支出)から捉えたものを
こくないそうししゅつ
国内総支出(GDE)といいます。

ししゅつめん こくみんしよとく そうじゅよう しめ
GDEは支出面からみた国民所得で、総需要を示します。

$$Y = C + I + G + NX$$

こくないそうししゅつ しょうひ どうし せいふししゅつ じゅんゆしゅつ
国内総支出は、消費(C) 投資(I) 政府支出(G) 純輸出(N
こうせいようそ
X)という構成要素にわけられます。

こくないそうししゅつ
したがって、国内総支出は「 $Y = C + I + G + NX$ 」であらわされます。

けいざい おお こくみんしよとく
経済の大きさをあらわす国民所得を

せいさんめん とら こくないそうせいさん
生産面から捉えたものを国内総生産、

ぶんぱいめん とら こくないそうしよとく
分配面から捉えたものを国内総所得、

ししゅつめん とら こくないそうししゅつ
支出面から捉えたものを国内総支出 といいます。

こくみんしよとく こくないそうせいさん こくないそうしよとく こくないそうししゅつ こうせいようそ
国民所得、国内総生産、国内総所得、国内総支出は、構成要素

ひょうじ
では、どれも Y で表示されます。

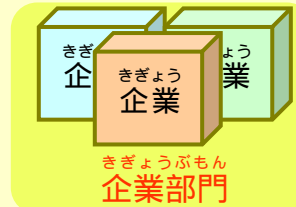
国内総支出 Y

$$= \text{消費 } C + \text{投資 } I + \text{政府支出 } G + \text{純輸出 } NX$$



しょうひ
消費 (C)

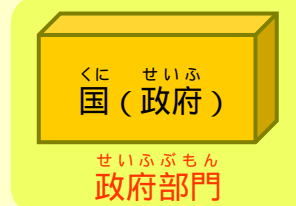
みんかんさいしゅうしょうひししゅつ
民間最終消費支出 (C)



どうし
投資 (I)

こくないそうこていしほんけいせい
国内総固定資本形成 (I)

ざいこひんぞうか
在庫品増加 (I)



せいふししゅつ
政府支出 (G)

せいふさいしゅうしょうひししゅつ
政府最終消費支出 (G)



じゅんゆしゅつ
純輸出 (NX)

ゆしゅつ ゆにゆう
輸出 (X) - 輸入 (M)

こくないそうししゅつ うちわけ 国内総支出の内訳

G D E は、**民間最終消費支出**、**政府最終消費支出**、**国内総固定資本**

形成、**在庫品増加**、**純輸出**の合計としてもとめられます。

* 民間最終消費支出

民間最終消費支出とは、**家計**による**消費財**への**支払い**のことです。

* 政府最終消費支出

政府最終消費支出とは、**政府**による**消費財**への**支払い**や、**公務員**の**給料**などのことで、**略して政府支出**といいます。

* 国内総固定資本形成

国内総固定資本形成とは、**住宅投資**、**設備投資**、**公共投資**などの**固定資本**の**追加分**のことで、**投資の一項目**です。

* 在庫品増加

在庫品増加とは、**原材料**・**仕掛かり品**・**売れ残った製品**などの**増加分**を**金額**であらわしたもので、**投資の一項目**です。

* 純輸出

純輸出とは、**輸出**から**輸入**を**差し引いた**ものです。

海外へ**商品**を**売る**ことを**輸出**といいます。**海外**から**お金**を受け取るので、

プラス項目であらわします。

一方、**海外**の**商品**を**買い入れる**ことを**輸入**といいます。**海外**にお金を**支**

払うので、**マイナス項目**であらわします。

しょうひめん 消費面からみた国民所得
こくみんしょとく

こくないそうししゅつ
国内総支出 (G D E)

G D E = 民間最終消費支出 + 政府最終消費支出

こくないそうこていしほんけいせい ざいこひんぞうか じゅんゆしゅつ
+ 国内総固定資本形成 + 在庫品増加 + 純輸出

みんかんさいしゅしゅつ
民間最終消費支出

かけい しょうひ
家計の消費

せいふさいしゅしゅつ
政府最終消費支出

せいふ しょうひ
政府の消費

こくないそうこていしほんけいせい
国内総固定資本形成

こていしほん ついかぶん
固定資本への追加分

とうし
(投資)

ざいこひんぞうか
在庫品増加

げんざいりょう う のこ
原材料・売れ残り

ぞうかぶん とうし
などの増加分 (投資)

じゅんゆしゅつ
純輸出

ゆしゅつ ゆにゅう
輸出 - 輸入

ぶっか けいき 物価と景気

モノの消費（支出）が増えると、モノの値段の平均値である物価は上がります。逆に、モノの消費（支出）が減ると、物価は下がります。

市場メカニズムが働くと仮定すると、**好景気**のときには**物価が上がり**、**不景気**のときには**物価が下がり**ます。

きんり けいき 金利と景気

金利が下がると、企業の資金調達の借入金利（コスト）が下がり、企業の利潤は大きくなります。したがって、**金利が下がる**と**投資が増え**ます。

逆に、金利が上がると、企業の資金調達の借入金利（コスト）が上がり、企業の利潤は小さくなります。したがって、**金利が上がる**と**投資が減り**ます。

かわせ けいき 為替と景気

輸出すると、海外にモノを売った代金が入ってきます。逆に、輸入すると、海外からモノを買った代金を支払います。

輸出が輸入より大きいときには、**純輸出（輸出 - 輸入）はプラス**となります。

円安になると、**純輸出は増えて**、**景気にはプラス**に働きます。逆に、**円高**になると**純輸出は減って**、**景気にはマイナス**に働きます。

たとえば、純輸出が1億ドルなら、為替レートが1ドル = 100円から120円に動くと、純輸出は100億円から120億円に増えます。

